

平成ノ大造営 趣意書

神勅〔日本書紀〕（神代卷）

汝三神 宜しく道中に降居して

天孫を助け奉りて 天孫に祭かれよ

日本書記は、わが国のはじまりを記す最古の正史である。その中に記載される神勅（此の言葉）は、天照大神より宗像三女神に下されたものであり、『大陸との交通の要衝である玄界灘に降臨して歴代の天皇を守護奉り、歴代の天皇から篤い祭祀を受けよ』との意である。

天皇の祖先神、天照大神の御子神である田心姫神、湍津姫神、市杵島姫神の宗像三女神は、天照大神の神勅により宗像の地に降臨され、皇室国家の守護神として、沖津宮・中津宮・辺津宮に祀られております。その創建の歴史は、「日本書紀」神代の巻にもあることから、宗像大社は全国八万の神社の中でも、有数の古社とされています。さらにその御神徳は、あらゆる道を司る神「道主貴」としても広く崇敬され、宗像大神は全国六千余社に祀られております。

沖津宮が鎮座する沖ノ島においては、大和朝廷による国家祭祀の斎場ともされ、そこからは戦後の三次に亘る発掘調査により、八万点に及ぶ各時代の超一級品の神宝類が出土し、それらは全て国宝に指定されております。中には、ペルシャからシルクロードを渡って伝わったものもあることから、沖ノ島は「海の正倉院」とも称され、この地がいかに重要なところであったかが、古代祭祀の痕跡から立証されております。

昭和十七年に結成された宗像大社復興期成会においては、このような宗像大社の歴史を明らかにするため、二十四年の年月を費やして『宗像神社史』を編纂、昭和四十六年には大規模な境内整備「昭和の大造営」がなされ、宗像大社に新たな息吹が吹き込まれることとなりました。

しかしその後、四十年余りの歳月が経過したため、本殿及び拝殿をはじめとする各諸施設に傷みが見受けられるようになり、修理修復の必要性が生じてまいりました。

平成ノ復興期成会においては、かかる境内整備を執り進めることによって、皇室国家の守護神である宗像大神の御神威の発揚に努めてまいり所存であります。各位におかれましては、趣旨御理解の上、格別の御協賛を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年

宗像大社平成ノ復興期成会

会長 出光 昭介

副会長	松尾 新吾	理事	清水 正敏	参与	置鮎玄二郎
	長尾 亜夫		安部 照生		瀧口 幸男
	出光 豊		佐藤 千里		松井 善徳
			寺島 俊基		沖西 敏明
常任理事	麻生 泰		養父 守		山本 清
	田中 浩二		倉元 亮兒		城野 寅夫
	清水 晃				瀧口 和彦
	谷 正明	監事	安永 洽允		安部 實
	伊東信一郎		福田 伸孝		小島 正弘
					河辺 紘
					河辺 邦明